

# みやこんじょ



## No.40

発行日 2015年7月1日  
 発行 独立行政法人国立病院機構  
 都城医療センター  
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1  
 TEL 0986-23-4111

基本  
 理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

## 備える

院長 井 口 厚 司

コンピューターにスマートフォン、ワープロ全盛の時代になって文字を書くことが少なくなったために、(あれ、どんな漢字だったかな?)などと簡単な漢字を書く際にふと不安になったといった経験はありませんか。私はつい最近、「備える」という漢字を思い浮かべていて、間違っていないかどうか心配になって思わず紙に書いて確かめたことがありました。

6月1日、日本年金機構から国民の個人情報が外部からの不正アクセスによって流出したとの公表と謝罪がありました。今回の事案は標的型メールと呼ばれるもので、機構職員が調達業務に使用している公開アドレスのパソコンに届いたメールを開封後、2週間くらいの中に非公開アドレスのパソコンに感染が拡大し、複数のパソコン端末から最終的に125万件(もしかするとそれ以上かも知れないとのこと)の年金加入者情報が外部に流出したとされています。

このことは国民にとって大きな問題ではありますが、病院という究極の個人情報を扱う職場で働くわれわれにとっては今回の年金機構の情報管理の在り方については他山の石とすべきものです。大量の個人情報が流出してしまった事件としては、1年前のベネッセコーポレーションでの顧客情報漏えいが思い出されます。当時、同社は様々なところからバッシングを受けたわけですが、個人情報管理の面では漏えい情報や犯人の特定が自社でできるほどベネッセのセキュリティレベルは高かったとも言われています。それでも悪意のあるスタッフの存在が内部にあると、どんなにしっかりした管理をしていたとしても個人情報を奪われることはあり得るということです。一方、今回の年金機構の場合にはいくつかの対応の問題があるようです。事件前から正規・非正

規に関わらず2chに書き込みをするなど職員のモラルの面で問題があったこと。個人情報が含まれるファイルを業務がしやすいといった理由で、しかもパスワードの設定もなく個人の業務用パソコンに保持していた

こと。また不審なファイルを誤って開封した後の管理者への速やかな報告が遅れ、早急な対応ができなかったことなどです。これらの詳細は教訓として、われわれもセキュリティ管理の面でしっかり周知しておかねばなりません。

今年の10月にはご存知のように国民ひとりひとりに12桁のマイナンバーが配られます。これは社会保障や税、災害対策の現場で効率的に情報を管理し国民の利便性を高めるために作られた制度です。現在医療の分野では、個人が自分の医療・健康情報を全国どこでも知る事が出来るようにする「どこでもMy病院構想」が進められていますが、その際の共通IDにマイナンバーをリンクさせようといった検討もなされています。世界がグローバル化し多くの情報がデータ化されてきた現在、個人情報の漏えいを恐れてばかりいては新たな成長は期待できません。これからの医療・介護・健康戦略においても臨床現場での徹底した情報のデジタル化こそICT基盤の構築に不可欠であり、であるからこそなお一層の情報保護に努めなければなりません。われわれ一人ひとりが自分の個人情報、日常的に取り扱う患者さんの個人情報を守ることに日頃から注意を払い、まさに「備える」という言葉を忘れないようにしたいものです。



## 泌尿器科腹腔鏡下手術の取り組み

当院の泌尿器科では、平成26年6月より3D腹腔鏡ビデオシステムの導入に伴い、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準（1年間に10例以上実施）取得に向け、平成27年2月より当該手術を開始しました。平成27年5月に10例以上の実績を得たため、平成27年6月1日より施設基準を取得しました。

また、平成27年5月1日より腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術の施設基準も取得しており、腎癌に対してはT1a症例に関しても、腹腔鏡下での部分切除を積極的に行っております。



H26.12月～H27.6月 腹腔鏡下手術

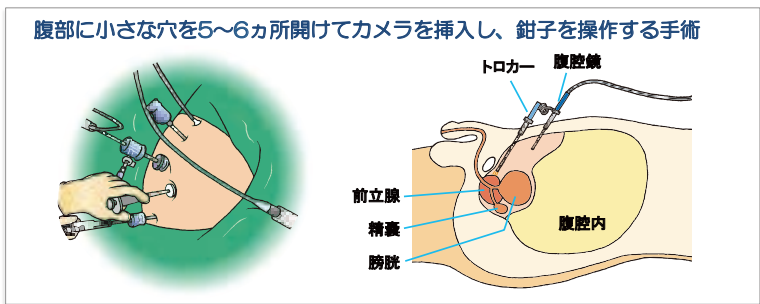
腹腔鏡下前立腺全摘出術	20例	腹腔鏡下膀胱全摘出術	2例
腹腔鏡下腎部分切除術	4例	腹腔鏡下腎摘出術	7例

### 腹腔鏡下前立腺全摘出術

#### 手術方法について

腹部にポートと呼ばれる穴を5つあけて、そこからカメラや鉗子と呼ばれる器具を挿入して手術を行います。まず膀胱の周囲を剥離し、前立腺周囲の血管を処理します。次いで膀胱から前立腺と精嚢を離断し、直腸と前立腺との間を処理し、尿道を切断して、膀胱の一部を前立腺につけて精嚢とともに摘出いたします。その後、最後に膀胱と尿道をつないで尿道カテーテルを挿入し手術を終了いたします。患者さまの病状や今までの手術の既往などから腹腔鏡手術が難しい場合は、開腹での手術を行うこともあります。

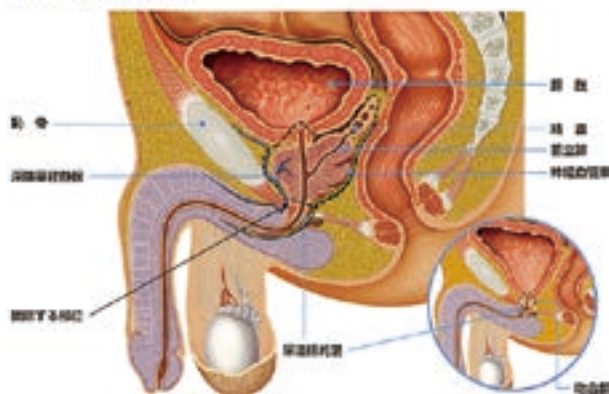
#### 腹腔鏡下前立腺全摘除術



#### 前立腺癌腹腔鏡手術の利点

1. 創が小さく、出血量も少なく、術後疼痛を軽減できる
2. 拡大視野が得られるため、前立腺辺縁の切開線を決定でき、勃起神経や尿道括約筋の温存、膀胱尿道吻合をより確実に行うことができる
3. この結果、断端陽性率低下による制癌性の向上、ならびに尿道カテーテルの留置期間・入院期間の短縮、勃起能・尿禁制などの術後の生活の質（QOL）の改善が期待できる

根治的前立腺全摘除術



#### 当院での前立腺癌腹腔鏡手術の成績

現在まで手術時間の平均値は4時間6分で、出血量（尿込み）の平均は400ccでした。輸血症例はなく入院期間は1週間程度でした。切除断端陽性率は16%であり、当科の開腹の成績（切除断端陽性率28%）に比べ良い結果となっています。

（泌尿器科医長 山崎 丈嗣）

## 呼吸器外科の紹介

国立病院機構 都城医療センター（旧都城病院）はがん診療連携拠点病院であり、宮崎県西地区で呼吸器外科治療が可能な数少ない施設である。

診療対象は肺がん、気胸、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、膿胸など外科治療が中心であるが、その他診断不明の胸部疾患、不明胸水、胸部外傷などにも対応している。

診療科の体制は平成 27 年 6 月現在、スタッフ 2 名（巻幡、加藤）に加え、症例に応じて福岡大学病院から非常勤医師を招き手術を行い、地域内での治療完結に努めている。近年、内視鏡手術の低侵襲効果が広く巷間に知られるようになり、当科でも可及的に胸腔鏡手術や小開胸手術を行っているが、過度な低侵襲手術にこだわらず「安全第一」+「確実な手術」=「手術成績の向上」、ひいては「患者様の予後の改善」を第一義と考えている。

2013/14 年の手術実績は総数 108 例、肺がん 46 例、気胸 22 例であった。手術のみならず術後化学療法や手術適応のない進行がんの化学療法、さらには放射線治療など他科と連携して集学的治療を行っている。また症例に応じて日常生活や仕事などを続けながら外来通院で化学療法を施行することも可能であり、癌と共存しつつ生活の質を維持することにも努めている。

外来診療は火、木曜日、初診時は原則として紹介状と予約が必要だが、外来日以外や夜間でも救急担当医を介しオンコール体制で救急患者に対応している。

検査は、CT、MRI、骨シンチグラフィ、気管支内視鏡、超音波気管支鏡（EBUS-TBNA；Endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration）、CT ガイド下生検などを駆使して診断の精度向上を目指している。PET-CT 検査は補助検査として適宜連携病院に依頼している。得られた医療情報を元に呼吸器内科医、放射線科医とともに週 1 回の呼吸器カンファレンスで症例を検討し、各科横断的に密接な連携により診断から治療までを迅速に行えるよう心がけている。

近年の Topic として EGFR-TKI など分子標的治療薬が挙げられるが、四半世紀前には肺がん抗がん剤は効かないといわれた時代があったが、新薬や TKI の開発などにより現在では条件付きではあるが StageIV 期肺がんでも集学的治療により数年余命が得られる時代となった。セカンドオピニオンも受け付けているので遠慮なくご相談いただきたい。

今後も宮崎県西地区を中心とする患者様によりよい医療を提供すべく、他基幹施設や開業医の先生方のご協力を仰ぎながら、呼吸器外科スタッフ一同、いっそうの努力を行っていきたいと思っている。ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

※ 2015 年 4 月から毎月第 2 木曜日午後 5 時より呼吸器カンファレンスを Cancer-board として、胸部悪性疾患の症例検討会を開始いたしました。外科、内科問わず症例の相談などありましたら院外からの参加も歓迎いたしますので気軽にご連絡ください。

（呼吸器外科医長 巻幡 聡）



## 第3回 歯科診療における病診連携の夕べ

### 第3回 歯科診療における病診連携の夕べが開催されました。



#### 講演 1

「当院における周術期口腔機能管理の現状」として歯科口腔外科新屋俊明より都城医療センターでの周術期口腔機能管理実施件数が報告された。平成 24 年度は月平均 36.4 件、平成 25 年度は月平均 75.9 件、平成 26 年度は月平均 106.5 件と増加傾向を示したこと、主な紹介診療科は外科 295 例、呼吸器科 215 例、内科 117 例、泌尿器科 96 例で、主な対象部位は肺 231 例、大腸

112 例、胃 80 例、前立腺 61 例、悪性リンパ腫性 54 例であった。また、口腔管理を行えば手術前かなりの口腔内細菌数が減らせると介入の必要性を説明された。さらに、平成 26 年 10 月より当院がん患者の入院前口腔管理を、地域歯科医療機関へ依頼する「がん患者歯科医療連携」がスタートしたが、その紹介件数は 6 ヶ月間で 16 例と少なく、がんと診断されたら早期に各診療科から歯科口腔外科へ紹介されることの必要性も述べられた。

#### 講演 2

当院の婦人科の永井義雄先生が宮崎県の周産期について講演されました。

宮崎県では、平成 10 年から当時の宮崎大学産婦人科の池ノ上教授（現宮崎市郡医師会病院特別参与）を中心に、産婦人科を持つ県内の医療施設が協力し合う取り組みを開始した。具体的には、県内を 4 地区に分け、各地区に地域周産期センター（2 次施設）を新設し、そこで開業医（1 次施設）には手に負えないハイリスクな妊婦を受け入れることとした。つまり、妊婦は、まずかかりつけの産科開業医で検査や受診をし、母体や胎児に異常が見つかった場合に 2 次施設に転院し必要な治療を受ける。さらに、2 次施設でも対応が難しい場合には、総合周産期センター（3 次施設）である宮崎大学へ搬送して高度な医療を受けるシステムを構築した。このようなシステムを地域の開業医、2 次施設及び 3 次施設がそれぞれ密接に連携し合いながら作り上げた。開業医では正常分娩だけを扱い、健診によるスクリーニングで「リスク有り」と評価した妊婦を 2 次施設に送るシステムが確立したことで、開業医でのハイリスク出産の解消、訴訟リスク等の回避など大きな負担軽減が図られている。宮崎県の周産期死亡率は出生 1000 人に対し 3 と少なく（全国平均 5）、平成 11 年と同様に日本で最も安全にお産ができる県となった。また、歯科医師からは周産期の患者さんの治療の注意点について質問されていた。

当日は、院外からは歯科を中心に 15 名、院内から 42 名と多職種が参加し、歯科口腔外科田畑雅士部長の司会進行のもと活発な討議も行われ盛大で有意義な講演会となった。

（歯科口腔外科部長 田畑 雅士）



# 平成28年1月「全国がん登録」制度 (がん登録推進法) がスタート!

平成 28 年 1 月 1 日より「全国がん登録」が施行されます。

「全国がん登録」とは、日本で「がん」と診断されたすべての人のデータを、国で1つにまとめて集計・分析・管理する仕組みです。居住地域にかかわらず全国どこの医療機関で診断を受けても、「がん」と診断された人のデータは



都道府県に設置された「がん登録室」を通じて集められ、国のデータベースで一元管理されるようになります。



現在、「がん」と診断された人のデータを収集する「地域がん登録」制度があり、都道府県が各自体内で診断された「がん」のデータを集めます。また医療機関ごとに「がん」

のデータを収集する「院内がん登録」制度があります。しかし、住んでいる都道府県以外の医療機関で診断・治療を受けた人や、「がん」にかかってから他県に移動した人などのデータが重複する可能性があります。また、すべての医療機関が地域がん登録に協力しているわけではないので、国は法律を整備し「全国がん登録」制度と呼ばれる新しい仕組みをつくりました。



## 「がん登録」なくして「がん対策」はできません。

宮崎県の平成 25 年の三大死因別死亡率は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の順となっています。当年における県下の死亡者 12,906 人のうち、「がん」による死亡者は 3,631 人で約 3.5 人に 1 人が、「がん」で亡くなっており、本県においてもがん対策推進は重要な課題です。

部位別の死亡者数の推移をみると、男性では肺がんが多く、次いで胃がん及び大腸がんです。女性においては、肺がん、胃がん及び大腸がんがほぼ同水準で多くなっています。

また、「がん」患者さんの生存率計測には予後調査の重要性があり、年 1 回は国立がんセンターの調査により各市町村へ住民票紹介による生存確認が行われます。さらに予後情報の把握ができない場合は、地域の医療機関の皆様にもご協力いただければと思います。

## 【院内がん登録中級者研修修了を受けて】

国立がん研究センターでは、院内がん登録精度向上のため育成研修が行われています。今年度より希少がんのデータについては、中級研修修了者がいる施設に限って集計を回収して公開していくことになりました。

当院も地域がん診療連携拠点病院として中級研修修了者の配置が必要とされ、昨年、「院内がん登録中級者研修」を修了したことをご報告いたします。現在、全国で 664 名が合格しています。

また、当院では診療情報管理士の資格を有した職員が院内がん登録を行っており、専門性も持って業務にあたっています。宮崎県南西部の中核病院として精度の高いデータの構築に努めております。また県内におきましても登録研修プログラムを予定しておりますので、地域の医療機関でがん登録を行っている担当者の皆さま、是非ご参加ください。



(医療情報管理部副部長 丸山 こずえ)

## 基礎看護学実習Ⅰ(見学実習)を終えて

今回は基礎看護学実習ということで、入学後初めての实習でした。実習へ行く前までは期待よりも不安のほうが大きく、緊張もしましたが、実際に病棟へ行くと看護師からさまざまなことを教えてもらい、とても楽しく学びの多い実習となりました。

私がこの見学実習で最も印象に残っているのは、患者さんとのコミュニケーションです。私にとって初めて患者さんと接する機会でもあり、不安もありましたが、



終始和やかな雰囲気です。話をすることができました。話をする際、患者さんからさまざまなことを教えていただきました。看護師は患者さんに対して一方的にケアするだけでなく、患者さんからも学ばせてもらっているということを実感することができました。

この見学実習を通して、私はさらに看護に対する興味・関心が増し、同時に勉強に対する意欲も増しました。立派な看護師になるためにも、今回の見学実習で学んだことを今後の学習にもいかしていきたいです。  
(看護学校1年生(69回生) 有村あおい)



## 看護の日を終えて

今回、私はイベント委員として「看護の日」に参加しました。イベント委員は一ヶ月以上前から企画を行い尿器カバー、ウロガードカバーを作成しました。カバー作成は入学してきたばかりの一年生にも協力を得ながら行いましたが、一年生の戸惑いや自分たちによる伝達不足など様々な問題が発生する中で一つ一つ丁寧に縫いあげて完成させました。

当日の午前中は全校生徒により「看護の日の意義を理解し、看護の心、感謝の心、助け合いの心を分かち合う」という目的に沿って、各学年で宮崎県都城市の地域の特徴を事前に調べ持ち寄りました。母子・老年・精神・成人の分野に分かれ、各分野の特徴を捉えてそれぞれの学年の意見をまとめていきました。私たち二年生は都城市が行っている地域サービスを調べ、都城市民がより良く暮らすための社会資源が豊富にあることがわかりました。私たちが看護師になった時に患者さんや看護を行った人々に対して確かな情報提供を行っていくためには地域サービスを理解しておくことや、地域の人々との交流が大切であると改めて感じる事ができました。全学年によるグループワークを行うことで他学年との交流を深め、自分にはない考えを知ることができ視野を広めることができました。



午後からは、各病棟・外来・手術室へ行き清掃活動と、学生が作成した尿器カバーとウロガードカバーを各病棟に持って行きました。清掃活動では患者さんがいつも使用しているベッドや車椅子、点滴スタンドを磨きあげ、患者さんがより良い治療ができるようにと思いを入れて行きました。患者さんにとって環境を整えることは回復にむけてとても大切な要因の一つです。

ナイチンゲールが看護覚え書に書いている通り、環境を整えることは患者の生命力の消耗を最小限にすることにつながります。実際に行うことで環境調節の大切さを実感することができました。この機会を生かして各自が目指す看護師像に向かって励みたいと思います。

(看護学校2年生(68回生) 山田瑠衣)

# 連携医療機関の ご紹介



医療法人社団 健仁会

## 有川呼吸器内科医院



院長  
ありかわ けいすけ  
有川 圭介 先生



会長  
ありかわ けんぞう  
有川 憲藏 先生

所在地	〒885-0012 都城市上川東1丁目27号6番1
TEL・FAX	TEL 0986-24-6677 FAX 0986-24-6760
診療科目	呼吸器内科、アレルギー科
専門医	呼吸器専門医、アレルギー専門医、気管支鏡専門医、結核・抗酸菌症認定医
病床数	一般19床
診療時間	平日9:00～12:30・14:00～17:30 土曜9:00～12:30
休診日	日、祝日



27年5月更新 16列MDCT



都城医療センターとのご縁の始まりは、会長（父）が昭和50年（1975年）に鹿児島大学から当時の国立都城病院に出向し放射線科を初代医長として立ち上げました。昭和54年に退職して、上川東に有川医院を開院し、地域の患者さんに支えられ35年経ちます。昨年10月に私（院長 圭介）が医院を継承し、2人とも呼吸器専門医ですので呼吸器診療に特化しようと『有川呼吸器内科医院』へ名称変更いたしました。

当院は呼吸器専門ですので咳や痰が長引く・風邪が治らない・息苦しい・息切れ等の症状で受診される患者さんが多く、喘息・COPD・気管支炎・肺炎・じん肺・間質性肺炎・肺癌などで通院される方がほとんどです。

呼吸器疾患は慢性疾患ですので、最近では病状の進行や高齢化で在宅酸素療法や鼻マスク式人工呼吸器を使用している方が多い傾向です。感冒等で憎悪

することが多いので、入院療養が必須となるため、当院は19床の入院施設を有しております。

元々、都城地区には呼吸器専門の医療施設が少なく、以前より貴院の呼吸器内科の後藤先生、放射線科の日野先生、新村先生とは肺癌の病診連携、勉強会・呼吸器カンファランス等で大変お世話になっております。

4年前に新設された呼吸器外科の巻幡先生、加藤先生、前川先生（国立大牟田病院へ）には気胸の急患にも対応して頂き、何よりも肺癌の都城地域完結型医療が可能となったのが肺癌の患者さん、我々にとっても心強い限りです。

わたくしも貴院の井口院長とは九州医療センターで一緒に勤務しておりましたご縁もあり、都城地域医療に携わる連携医療機関として、今後とも『有川呼吸器内科医院』を末永くよろしく願いいたします。

外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 都城医療センター 国立病院機構

受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 27 年 6 月 1 日】

Table with columns for medical department (e.g., Internal Medicine, Pediatrics, Surgery) and days of the week (Monday to Friday). It lists the attending physician for each day and time slot.

【その他の特殊診療】

Table for special medical services including Endoscopy Center, Radiology, and Dental Oral Surgery, with columns for days of the week and specific services.

- ※ 1 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前にFAX連絡票と共に、最新の血液データを送って下さい。
※ 2 外科初診日(月水金)は、紹介初診の患者様の診察は10時以降になります。
※ 3 がんサポート外来については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。
※ 4 緩和ケア外来については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。
※ 紹介予約制および予約制については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※ セカンドオピニオンの受診については、予約制となっております。地域医療連携室までご連絡頂きますようお願いいたします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地1 TEL (0986) 23-4111 FAX【地域医療連携室】(0986) 26-1893 FAX【代表】(0986) 24-3864



独立行政法人 国立病院機構

都城医療センター (地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-23-3864
E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会